



発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>

# 東北教区報 2023年10月号

## あけぼの

シリーズ「東北の信徒への手紙」  
**安心しなさい。わたしだ。**

主を見つめて

司祭 ヤコブ 林 国秀



この世の組織やご家庭、個人の人生はしばしば船や船旅にたとえられます。船は力と前へ前へと進みます。そうしないと船はやがて沈んでしまいます。教会もまぎれもなくこの世をひたすら進む救いの箱舟です。目的地は「天の国」に他なりません。そして今その船に「漕ぎ悩む」という状況が起こっています。教役者と信徒、そして教会に連なる全ての人々が共に「今できることをしましょう」と力を合わせ、一生懸命に漕ぎ続

けていますが中々進みません。教会はいつの時代も思い悩んだのかとさえ感じるのですが、この状況は主イエスと実際に歩んだ弟子たちも経験したことでと気づきます。それはマタイによる福音書の14章22節以下の「湖の上を歩く」主イエスの話に見られます。

この話は当時の教会の姿が重ねられていると解釈されています。ガリラヤ湖に漕ぎ出した舟は、誕生したての教会を表し、主は「強いて」弟子たちを舟に乗せ、自分は舟に乗らず彼らを先に行かせました。このことは、弟子たちがそれまで主とずっと一緒だったのに、主は、あれよあれよという間に、十字架につけられてしまい目に見える主がおりなくなつたことを示している

と解釈されます。弟子たちは復活の主との出会いがあったとはいえ、大きな恐れと不安を抱えました。主の姿の見えない中、教会という船を漕ぎ出したのですが、なかなか前へ進みません。逆風が吹き、波が行く手をさえぎります。この様子は、当時の教会に対する迫害や内部の問題と捉えられます。そこに湖上を歩いて主が舟に近づかれ、弟子たちは恐れおののきますが、主は「安心しなさい。わたしだ。」と言われます。ペトロは自分も主に近づこうとして湖上を歩き始めますが、周りの状況に心が奪われ主から目をそらした瞬間溺れそうになります。主はペトロに「信仰の薄い者よ、なぜ疑つたのか」わたしは共にいるではないかと叱咤し、主と一緒に舟に乗り込むと、風も波も静まり舟はまた進み始めたという話です。ここに普遍的な真理と私たちの教会に対するメッセージがあります。

私たちは使命を果たすために、一生懸命に舟を漕ぐ中、目に見える姿の主イエスはおりられません。この世の荒波がもろに教会に吹き付けます。教会の中にも科学万能、合理主義、経済優先の考えが求められることもしばしばですが、舟の前に立つておられる主イエスから決して目を逸らさぬようにしなければなりません。とはいえ私たちは、どうしようもない弱さを持っていて、神さまを試みてしまつたり、疑ってしまうことさえあります。頭で理解しつつも、決断を迫られる時ほど、不安や新しいことへの恐怖からか、心配を先取りし、神さまへの信頼を見失ってしまいがちになってしまいます。主は、そのような私たちに「信仰の薄い者よ」と言いながらも、溺れそうになる私たちを、捕まえてくださいます。私たちにできることは、まず今こそ「ほんとうに、あなたこそ神の子です」という信仰を確かめ、心から礼拝を懸命に捧げることだと思ふのです。主イエスから目を逸らさずに、開き、ささげ、勇気と希望をいただき前に進んでまいりましょう。

(郡山聖ペテロ聖パウロ教会 牧師)

# 平和の祈り

山荘で聖歌とトークを

十和田湖畔施設活用グループリーダー パウロ 島守 信昭



8月5日(土)午後1時より十和田湖畔鉛山聖教主礼拝堂で、「平和の祈り」を行いました。長谷川主教、そして青森、岩手、宮城の各県から35名の方々が参集してくださいました。礼拝後、ヴァイアル山荘に移動して「山荘で聖歌とトーク」のイベントを開催しました。日本聖公会聖歌集から10曲選定、伴奏はヒムプレーヤーです。飲み物やお菓子など沢山用意していただきました。開始前に喉を潤おし、お菓子を頂いて準備完了。「あな

たの平和の器にしてください」から聖歌スタート。聖歌の合間にトークを挟みました。トークは5人。ご自分のヴァイアル山荘での思い出を語っていただきました。  
「幼稚園の子どもたちと共に楽しんだ、今日も木の緑が美しく、風がさわやか。子どもたちの思い出の中に原点として残っている」「ヴァイアル山荘は祈りのできる場所、神さまとお話ができる場所」「小・中学校のころファミリーキャンプに参加した、これからも続いていくように願っている」「高校のブラスバンドの仲間と来た、楽しい思い出、苦しい思い出詰まっている山荘」など話して頂きました。どの曲もハーモニーがとても良く、歌わずに聴き惚れてしまいました。「聖歌をこんなに沢山歌ったのは何年振りかです。充実した時を過ごせました」と言う声が多く寄せられました。準備をして下さった皆さまに感謝。



# 東北教区 青年キャンプ開催

2023年8月11日(金)から12日(土)にかけて、4年ぶりに教区青年キャンプが開催されました。キャンプは盛岡の聖パウロ幼稚園を会場に実施されました。参加者は幼稚園の先生や久しぶりに顔を見せにくれた青年など、合わせて10名の参加者となりました。久しぶりの開催でしたが、まず新しい歩みをスタート出来たことを感謝します。  
(青年グループリーダー  
司祭 パウロ 渡部 拓)

# 参加者の声

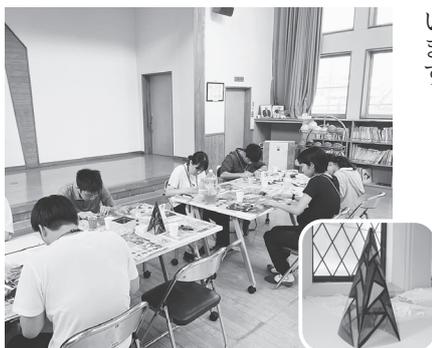
仙台基督教会

フランスス林

裕登

8月11日、12日に4年振りとなる青年キャンプを開催することができました。昨年はギリギリまで準備してききましたが、開催日近くにコロナ感染者の増加に伴い、中止となりました。そんな悔しい想いの中、今年は無事開催することができました。参加した10名全員が参加して良かった、楽しかった、と言える内容になりました。

今年の青年キャンプは、盛岡の聖パウロ幼稚園で開催されました。1日目はワーク(体験学習)でプッシュスタンドというスタンドグラス風の色彩をつけて平面画や立方体を一人一個作成に取り掛かり。時間が一瞬に感じるほどに、夢中で取り組みました。夜は美味しい食材を堪能しながら、バーベキューを楽しみました。2日目は7時に起床し、朝食ではカナン園の食パンの美味しさに衝撃を受けました。お昼までワークの続きを行い、



前日の余った食材からお昼ご飯を作って囲み、最後はキャンプに参加してどうだったか、次はどうしていききたいかといったことを話し合うことができました。そして閉会の祈りを終えて解散し、青年キャンプは終了となりました。  
駆け足で内容を書きましたが、ここでは伝えきれないくらい楽しい時間を過ごすことができました。今回ようやくの想いで開催できて、皆と一緒に何かをやる時間、一緒に楽しい時間を過ごす大切さ、聖ルカ幼稚園の先生たちと交流が深められる場ができたことに感謝だと感じました。このような場をより良くしていくために、もっと教会の活動などに貢献していきたいと思えます。



副会長 赤坂 典子  
(東北教区保育連盟)

## 東北教区保育連盟 第49回 保育者大会

去る7月31日から8月1日、コロナ過で開催できなかった東北教区保育連盟主催保育者大会が、4年ぶりに盛岡で開かれました。待ち望んでいた対面での研修会とあつて、教区内の幼保園から100名を越す教職員が参加しました。基調講演で学びを深め、夕食では各園親睦を深め、翌日は実技研修でたっぷり楽しみ、充実した二日間となりました。

### 参加者の声

若松聖愛幼稚園 教諭

松本 さくら

私が前回保育者大会に参加させていただいたのは2019年。それから4年ぶりの開催となった今回の保育者大会。この数年間で生活スタイルがガラリと変わり、保育においても「子どもともしっかり関わりたい、顔を合わせて笑い合いたい、でも出来ない。」そんな葛藤を抱きながら過ごしてきました。少しずつ元の日常に戻りつつある今日、久しぶりの開催となった保育者大会にドキドキ、ワクワクを抱きながら二日間の研修に参加させていただきました。研修Iでご話いただいた片柳弘史神父様。実は私の園では朝のミーティング時、片柳神父様の著書を1ページずつ読ませていただいています。日々の保育に悩み、元気がでない時、片柳神父様の言葉を読むと、「私はこのままで大丈夫！」と気持ちが高まるのです。日々パワーをくださる片柳神父様とはどんな方なのだろう？とお会いできるのを楽しみにしていました。いざお会いした神父様は、とびきりの笑顔！そしてパワフル！でした。神父様が伝えてくださった「自分自身を信じる」ことの大切さを心に留め、子どもたちに愛を伝えていける保育者になりたいと思いました。また二日目の研修では渡邊恵理先生による音楽遊びの実践。他園の先生方と共に音を奏で、笑い合い、音楽遊びの楽しさを感じる事ができました。沢山いただいた音楽遊びのアイデアを日々の保育に取り入れていきたいと思えます。この二日間、共にキリスト教保育に携わる仲間と過ごせたこと、非常に嬉しく思います。ありがとうございます。



仁王幼稚園 園長

クリスティーナ 曾根 美砂

2019年夏の宮城大会で引き継いだ保育者大会のシンボルともなっている木製の十字架は、その後3年間本園の職員室に掲げられたままでした。その十字架が、大きな会場の中央に設置され、115名の参加者が歌う聖歌が会場内に響いたとき、感動に震えて、キリスト教保育を行っている教区内の多くの仲間と「顔を合わせ集まる」ことが、どれだけ自分のモチベーションになっているのかを再確認しました。子どもたちと共に祈り、遊び、生活する中で、保育者は「本当に自分でいいのだろうか。」と、どこかに不安を抱えています。その気持ちを、一日目の講師、カトリック支部教会主任司祭の片柳弘史神父は、マザー・テレサとご自身のエピソードや、聖書のことばを通して「あなたが生きていくことはとても素晴らしいこと。一人ひとりにできることがあって、それぞれができることをすればいいだけ。」



と、ものすごい熱量でエールを送ってくださいました。また、二日目の講師、音楽療法士であり盛岡聖公会の信徒の渡邊恵理先生は、この研修会のために作曲をしてください、音楽を通して五感が大いに刺激されて体と心が解放され、笑顔になる楽しさと、それによって成長が与えられることの喜びを教えてくださいました。参加者の交わす会話から笑顔の輪が広まり、歌や演奏を共にすることで心がひとつになる瞬間を体験した時でした。来年度の秋田大会で再会し学びの時間が与えられることを楽しみにして、東北内のそれぞれに園に戻りました。そして今、新たな気持ちで2学期を迎えています。



東北教区

アイリーン 坂水 かよ

札幌・仙台を交互に訪問して毎月開催される「チーム北国」のミーティングでは、それぞれの教区の状況をお互いに共有しながら、今年度の課題に向かって進んでいます。

第4回ミーティング（6月29日仙台）では、チームが円滑に機能するための組織づくりについて協議しました。その中で、「宣教協働」「広報」「組織」「財政」の4つのセクションが設定され、チーム・リーダーが決まりました。今後は両教区からのメンバーを加えて、拡大メンバーでセクション・ミーティングを行い実際に動き出します。

第5回ミーティング（7月17日札幌）では、宣教協働の

目的と方向性を共有するために、「なぜ」「どのように」「何を」を誰もが理解できるように簡潔に示した「ミッションステートメント」の作成に向けて協議をしました。今年は「2023年宣言」として、両教区の宣教協働ならびに教区再編についての展望を示すことができるよう、引き続き話し合っていきます。

前回のミーティング以降、両教区の協働に関わる「動き」として、宣教協議会に参加する北海道教区、東北教区の女性メンバーによる「井戸端会議」が計画されています。

東北教区教役者会（8月1日、2日）に笹森田鶴主教をお招きしました。また、10月18日、19日に函館で開催される北海道教区教役者会には、東北教区教役者が全員参加、合同教役者会とすることが決定しています。

ミーティングの中で、違いを見出す楽しさや多様性を得る豊かさを感じ、お互いの距離がさらに近いものになっていくことを実感しています。この「楽しい」がキーワードになって、みんなでこれからの宣教協働に向かうことができたらと願っています。

常置委員会報告  
(第110回・8月25日)

報告事項 ▼ 主教動静と今後の予定について報告 ▼ 常置委員長報告 / 「チーム北国」進捗状況、大田教区教区主教座聖堂改築等について報告。 ▼ 主事会議、教区財務状況報告。

協議事項 ▼ 新型コロナウイルス感染症に関する指針の見直しの要否について。基本の変更はせず、教区主教アンケートの情報共有と、指針No.11原則の徹底を周知していくことを確認。

▼ 秋田・九州大雨による被害について。秋田については引き続き状況を精査し、個別にお見舞い金を拠出することを決定。 ▼ 礼拝協力教役者の活動中の事故負傷のケアについて、「災害補償規程」第2条第3項により礼拝協力者を補償対象者と認めることを承認。

▼ 2022年度教区決算（貸借対照表および一般会計収支報告書、特別会計収支報告書）について説明を受け、教区会に提出することを承認。 ▼ チーム北国セクションメンバーの選任について。メンバーの提

案がなされ、これを適当として承認。 ▼ 第108（定期）教区会の日程、書記等について。教区会諸委員について書記局からの提案に修正を加え承認。また北海道教区との交流プログラムを教区会中に取り入れることを承認。その他

スケジュール等について適当と認め承認。 ▼ 主事会議再編について。主事会議からの財政主事に関する提案、5年後の教区再編を念頭においた場合留任が適当とする案を承認。引き続き検討していくことを確認。

公 示

日本聖公会東北教区第108（定期）教区会を下記のように招集します。

教主降生2023年9月1日

日本聖公会東北教区  
教区会議長  
主教 フランシス 長谷川 清純 ㊟

記

日 時 2023年11月22日(水) 18時から  
11月23日(木) 17時まで  
場 所 日本聖公会東北教区 主教座聖堂 仙台基督教会  
礼拝堂・ビンステッド主教記念ホール  
仙台市青葉区国分町二丁目13-15

書記局を下記のように指名します。  
書記長 司祭 テモテ 遠藤 洋介  
書 記 セント・クリストファー 赤坂 聖矢

以 上



宣教協議会プログラムについて(前号からの続き)

ぶどうの枝だよりも第10号となりました。清里での宣教協議会開催も近づいてまいりました。今回は前回第9号の続きとして、宣教協議会のプログラムの中からいくつか紹介いたします。

「宣教協働区アワー」

このプログラムは、東日本宣教協働区、中日本宣教協働区、西日本宣教協働区ごとに分かれて時間を過ごします。内容については各宣教協働区の協働委員の皆さんに考えていただきますが、日本聖公会総会で宣教協働区制への道を歩むことをご提案された主教会からのメッセージを思い巡らせたり、これまでなかなかお目にかかることの出来なかつた協働区のメンバーと一緒に昼食を食べながら、出会いと交わりが豊かになることを願っています。

「清里コール(仮称)」

今回の宣教協議会の集大成でもあります。何か「宣言」というような形式ではなく、「呼びかけ」のような形式でまとめていきたいと考えています。私たち実行委員会では仮に「清里コール」と呼称して

います。宣教とは、神様が主体となって進められている、神の国の成就を目指す絶え間ない働きです。私たちはこの働きに招かれています。

そしてその招き(コール)

は今の時代、そしてそれぞれの状況においてどのようなように変化してきているのか、私たちはそれを机の上で考ええるのではなく、10年の実りを持ち寄り、私たちのあゆみ、物語を聴き、いのちの現場で働かされている5人の講師の皆さんからお話を伺い、そしてグループに分かれて思いを分かちあうことによって神様からの呼びかけ(コール)に応えていきたいと思えます。11月の宣教協議会に至るすべての

プロセスが「清里コール」とつながっています。

コールについてのイメージですが「難しい言葉を使わない」「強制されるものではなく、非難の対象とされるものでもなく、教会の宣教を主体的に担っていくきっかけとなるもの」、そして何よりも大切にしたことは清里コールによって皆が励まされ、元気になる内容にしたいと思っています。

「礼拝について」

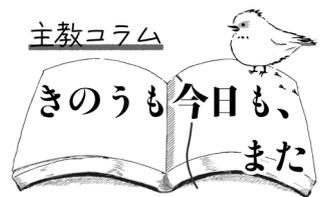
宣教協議会を支える礼拝について最後に紹介します。

礼拝はセーフチャーチワー

キンググループ、祈祷書改正委員、青年の皆さんに協力をいただき、豊かな祈りの時間を持つ予定です。神様の御声に耳を傾け、となりびとのために代祷を献げ、聖歌を賛美することも神様からの呼びかけに應える大切な時間です。コロナ禍を経て開催されようとしている宣教協議会です。清里に実際に集まる参加者のみならず、主を信じる信仰の仲間とご一緒に神の国への呼びかけに應えてまいりたいと思います。

(文責:司祭 越山 哲也)

主教コラム



秋田県は、7月14日から記録的大雨に襲われました。秋田市では、家屋浸水が約7千棟に

だければ幸いです。

盛岡で開催された東北教区

保育連盟主催第49回保育者大

会に全員参加した教役者たち

は、続けて夏の教役者会を開

きました。北海道教区笹森田

鶴主教を講師に迎えて、北海

道教区紹介とチーム北国報告

を分かち合い、繋温泉の宿に

1泊して交流を深めました。

2日目は、教役者たちが日頃

抱えている課題を出し合い共

有し意見交換する貴重な時間

を持ちました。コロナ禍にな

ってからのようにじつくと対面

での教役者会は開かれておらず、

4年振りの開催で教役者たちの心が弾んでお

りました。やはり、一つの場所

で顔と顔を面と向かわせ語り合

うのは楽しいものです。宿の

主夫婦の振る舞いにも大いに笑

わされました。リフレッシュ

されました。感謝でした。

8月中旬から新型コロナウイルス

イルス感染が拡大して第8波

のピーク時を凌ぐ勢いです。

気を緩めずに、改めて教会の

礼拝と活動を適宜判断する慎重

さが求められています。

(教区主教)

て募金等のご協力をしていた

